

令和5年度（2023年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本整備総合計画／ ①全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興 ②全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興（第2期）
事業（計画）期間	①平成31年度～令和3年度（3年間） ②令和4年度（1年間）
担当課	都市建設局 森の都推進部 みどり政策課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

事業（計画）の名称	全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興（以下「第1期事業」という。）	
事業（計画）期間	平成31年度～令和3年度（3年間）	
事業（計画）目標	まちなかに存して希少な動植物が生息する「水前寺江津湖公園（動植物園含む）」を整備することで、まちなかに“緑”を創出して森の都に再生を図るとともに、都市の魅力向上や賑わいの創出につなげる。さらには、これらの地区と熊本のシンボルである「熊本城公園」を会場とした全国都市緑化フェアの誘致により、市民の都市緑化意識の向上を図るとともに、震災で落ち込んだ地域経済の底上げを図る。	
概要	A 基幹事業 ・都市公園事業（水前寺江津湖公園） 378百万円 ・都市公園事業（熊本市動植物園） 1,234百万円 ・都市公園事業（熊本城公園（宮内地区）） 62百万円 ・公園事業特定計画調査（熊本市緑の基本計画改定調査） 15百万円 C 効果促進事業 普及啓発事業（全国都市緑化フェア推進事業） 369百万円	
事業費	2,058百万円	
経緯	H31-R3 全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興 R4 全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興（第二期） ・都市公園事業（水前寺江津湖公園） ・都市公園事業（熊本市動植物園）	
定量的指標	水前寺江津湖公園を利用した人数 H31年度当初：115,196人⇒R4年度目標：116,826人 市民アンケートにより「街なかに緑が多いと感じる」市民の割合 H31年度当初：67%⇒R4年度目標：83%	

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

事業（計画）の名称	全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興（第2期） （以下「第2期事業」という。）	
事業（計画）期間	令和4年度（1年間）	
事業（計画）目標	水前寺江津湖公園の既存照明設備については、老朽化、水銀灯の仕様（LED未対応）、景観への配慮不足等もあり、LED化することで夜間景観の魅力向上及び安全性の確保を目的とする。 また、動植物園管理事務所内のトイレは、建設から37年経過し、経年劣化による老朽化が見受けられるため、洋式化及び内装改修を行うことにより、快適な施設を提供することを目的とする。	
概要	A 基幹事業 ・都市公園事業（水前寺江津湖公園） 131百万円 ・都市公園事業（熊本市動植物園） 8百万円	
事業費	139百万円	
経緯	H31-R3 全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興 R4 全国都市緑化フェアの開催による森の都の再生と震災からの復興（第二期） ・都市公園事業（水前寺江津湖公園） ・都市公園事業（熊本市動植物園）	
定量的指標	水前寺江津湖公園を利用した人数 H31年度当初：115,196人⇒R4年度目標：116,826人 市民アンケートにより「街なかに緑が多いと感じる」市民の割合 H31年度当初：67%⇒R4年度目標：83%	

第1期事業

交付対象事業

事業名	事業種別	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (4事業)					
都市公園・緑地等事業	公園	都市公園事業(熊本市動植物園)	園路・施設整備等 (約126ha)	H31-R4	1,234百万円
都市公園・緑地等事業	公園	都市公園事業(熊本城公園(宮内地区))	用地取得・家屋補償	H31-R2	62百万円
		※ほか2事業		小計	1,689百万円
B 関連事業 (0事業)					
C 効果促進事業 (1事業)					
都市公園・緑地等事業	公園	普及啓発事業(全国都市緑化フェア推進事業)	計画策定・会場整備・撤去等	H31-R4	369百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					2,058百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

第2期事業

交付対象事業

事業名	事業種別	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業（2事業）					
都市公園・緑地等事業	公園	都市公園事業（水前寺江津湖公園）	園路・施設整備等（約126ha）	R4	131百万円
都市公園・緑地等事業	公園	都市公園事業（熊本市動植物園）	園路・施設整備等（約126ha）	R4	8百万円
				小計	139百万円
B 関連事業（○事業）					
C 効果促進事業（○事業）					
全体事業費（A+B+C）					
					139百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図

第1期事業



A12-001
 都市公園事業（水前寺江津湖公園）
 園路・施設整備等（約126ha）
 事業費378百万円

A12-002
 都市公園事業（熊本市動植物園）
 園路・施設整備等（約126ha）
 事業費1,234百万円

A12-003
 都市公園事業（熊本城公園（宮内地区））
 用地取得・家屋補償
 事業費62百万円

A12-004
 公園事業特定計画調査（熊本市緑の基本計画改定調査）
 緑の基本計画改定調査
 事業費15百万円

C12-001
 普及啓発事業（全国都市緑化フェア推進事業）
 計画策定・会場整備・撤去等
 事業費369百万円

事業概要図

第2期事業



A12-001
 都市公園事業（水前寺江津湖公園）
 園路・施設整備等（約126ha）
 事業費131百万円

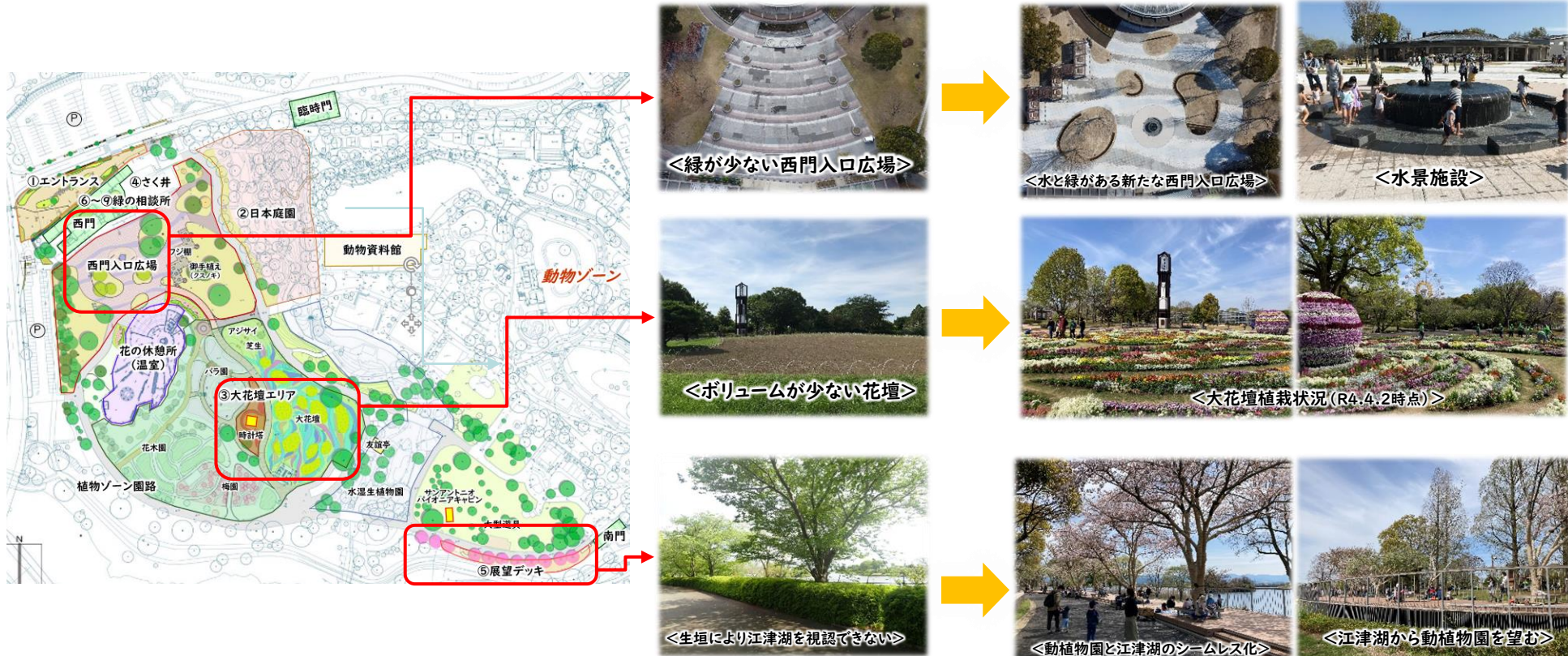
A12-002
 都市公園事業（熊本市動植物園）
 園路・施設整備等（約126ha）
 事業費8百万円

第1期事業

基幹事業：都市公園事業（熊本市動植物園）

事業内容 園路・施設整備等（約126ha）

全国都市緑化フェアの開催にあたり、メイン会場である動植物園について、都市の魅力向上や賑わい・憩い・癒しの空間の創出を目的に、植物ゾーンの西門入口広場や大花壇・展望デッキ・園路の整備をはじめ、動植物園正面ゲートの建築やトイレ・給水ポンプ・照明設備等の改修を行った。



基幹事業：都市公園事業（水前寺江津湖公園）

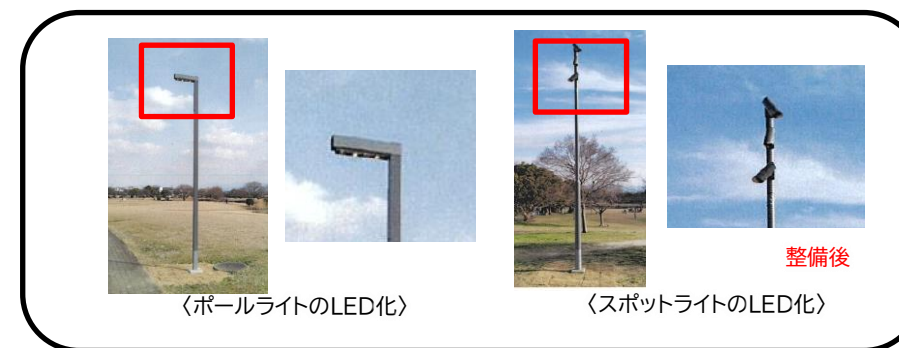
事業内容 水前寺江津湖公園照明施設等改修

本市を代表する市民の憩いの場である「水前寺江津湖公園（動植物園地区含む）」内の老朽化している水銀灯のLED化をすることで、当公園の魅力的な景観の形成や更なる賑わいの創出を図る。



【整備内容】

- ・老朽化への対応
- ・防犯性の向上
- ・省電力への対応(LED化)
- ・デザインの統一（夜間景観の魅力向上）



第2期事業

基幹事業：都市公園事業（熊本市動植物園）

事業内容 管理事務所のトイレ改築

動植物園管理事務所内のトイレは、建設から37年経過しており、建物は経年劣化による腐食や仕切り壁・ドアの汚れ、衛生設備の老朽化が見受けられ、便器は全て和式である。洋式化及び内装改修を行うことにより、快適な施設を提供することを目的とする。

●施設概要

管理事務所 構造：RC造 2階建
 竣工：昭和59年

《改築前》



《改築後》



2 事業の効果の発現状況

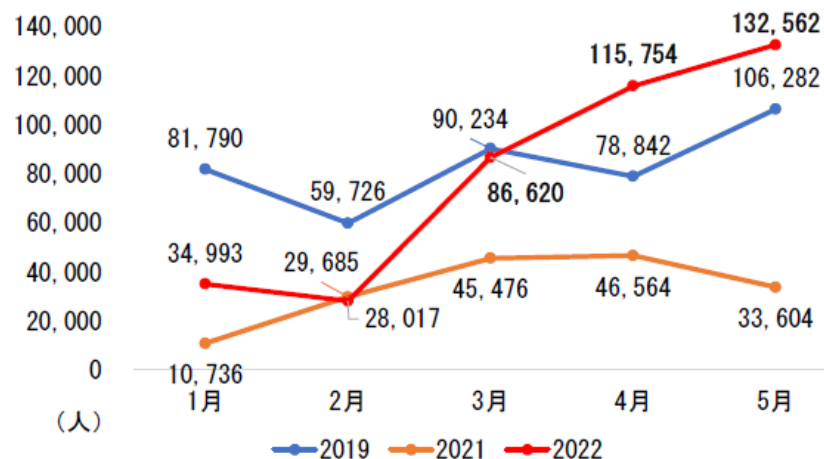
事業の効果の発現状況

【1】都市公園事業 (熊本市動植物園)

動植物園の改修及び水前寺江津湖公園内での水銀灯のLED化により、歩行空間の安全性の確保や景観の向上、動植物園の来園者数の増加などの効果が見られた。

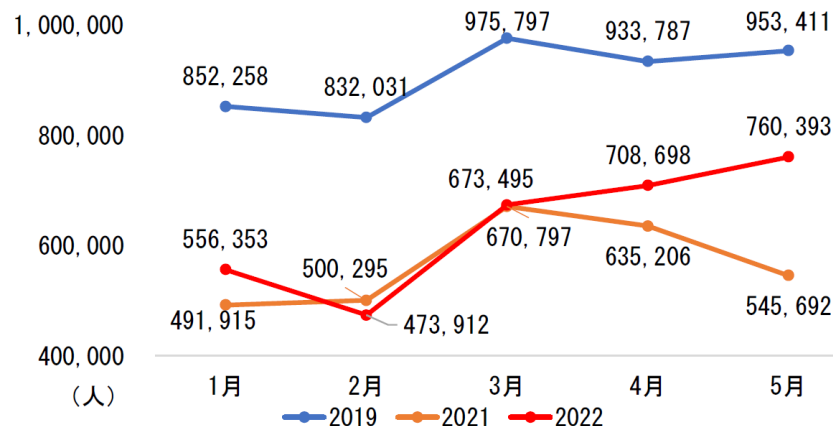
●動植物園の来園者数

・2019年(H31)では5月の入場者数が最も多く106,282人であり、1～5月の平均値は83,375人である。
・2022年(R4)は2月以降の入場者数が急増。特に花博開催期間中の3～5月の入場者数はコロナ禍前の2019年(H31)の同月をも上回っている。



●交通機関の利用状況(熊本市内の市電利用者数)

・コロナ禍前の2019年(H31)では、3月の利用者が最も多く、4～5月にかけては横ばいであるが、花博期間中の2022年(R4)では3月以降利用者が上昇している。
・花博開催期間中の2022年(R4)3～5月の市電利用者数は、同様にコロナ禍であった2021年(R3)を上回っている。



3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標	【第1期事業】 「水前寺江津湖公園（動植物園含む）」の整備により、まちなかに“緑”を創出して森の都に再生を図るとともに、全国都市緑化フェアの誘致により、市民の都市緑化意識の向上、にぎわいを創出し、震災で落ち込んだ地域経済の底上げを図る。 【第2期事業】 水前寺江津湖公園の既存照明設備をLED化することで夜間景観の魅力向上及び安全性の確保を目的とする。また、老朽化の見られる動植物園管理事務所内のトイレを洋式化及び内装改修を行うことにより、快適な施設を提供することを目的とする。																			
	計画の成果指標 （定量的指標）	定量的指標の定義及び算 定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 （結果） （R4）														
			当初現況値 （H29）	中間目標値 （R2）	最終目標値 （R4）															
①水前寺江津湖公園 の利用者数の増加	水前寺江津湖公園を利用した人 数	115,196人	116,174人	116,826人	達成 149,144人（最終）／116,826人（目標） = 127%															
②街なかに緑が多い と感じる市民の割合 の増加	市民アンケートにより「街なか に緑が多いと感じる」市民の割 合	67%	82%	83%	未達成 63%（最終）／83%（目標） = 75% <table><tr><td>成果指標</td><td colspan="4">実績</td></tr><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>街なか※に緑が多いと感じる人の割合 ※R2から「中心市街地」に変更</td><td>75</td><td>58.3</td><td>60.6</td><td>62.9</td></tr></table>	成果指標	実績					R1	R2	R3	R4	街なか※に緑が多いと感じる人の割合 ※R2から「中心市街地」に変更	75	58.3	60.6	62.9
成果指標	実績																			
	R1	R2	R3	R4																
街なか※に緑が多いと感じる人の割合 ※R2から「中心市街地」に変更	75	58.3	60.6	62.9																

4 対応方針（案）

市の対応方針

今後の方針	全国都市緑化フェアを契機として高まった緑化意識の継続のため、普及啓発への取り組みや、照明灯のLED化等の既存施設の更新、改修による利便性、安全性の確保により、さらなる利用者の増加をはかる。
今後の事後評価の必要性	成果指標①については達成済み。成果指標②については最終目標値は達成していないものの、未達成の原因としてR2年度にアンケートの質問内容を「街なかに緑が多いと感じるか」から「中心市街地に緑が多いと感じるか」に変更したことにより、割合が減少したものと考えられる。 R2 年度以降は割合が増加傾向にあるため、今後の事後評価（フォローアップ）は実施しない。
改善措置の必要性	未達成である成果指標②については、本整備計画期間中のアンケートの質問内容変更によるものであると考えられ、変更以降については増加傾向に転じているため、改善措置の必要性はない。
同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	本市で策定する各種計画内のアンケート内容を指標として設定する場合には、計画更新に留意し、関係課に事前に質問項目の将来的な変更可能性等について確認するなど、見直しの必要性がある。